アジア太平洋研究科修士論文主題

―アジア太平洋研究科修士論文副題（必要ならば）―

|  |  |
| --- | --- |
| 4023R000 　氏名（漢字もしくはローマ字） | 主査 早稲田　太郎教授 |

1. キーワード１, キーワード2, キーワード3 (キーワードの間はカンマ ”,” で区切る)

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3,500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズはA4を使用、段組みは２段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MSゴシック11ポイント。副題が必要な場合は、MSゴシック10.5ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文はMS明朝11ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとしで記述してください。

文字数は 3500文字程度（こちらのサンプルで3,512文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ずA4サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

[主要参考文献]

Inoue, T. (2001) Symbolic Computation for

Asymptotic Expansions of Multivariate Statistics.(to appear)

Inoue T., Asahi Y., Yamaguchi K. (2001), ‘An

Advanced Statistical Information Disclosure over the Internet’, Proceedings of the IAOS Satellite Meeting on Statistics for the Information Society, 208-217.